

株式会社JMC様

Asset View HYPER M(PC稼働監視・操作履歴・ファイルアクセス管理機能)で個人情報保護対策を実施

JIS要求事項にもツールでクリア。プライバシーマーク取得も含めたセキュリティ強化を実現。

ご担当者様



株式会社JMC
常務取締役
諏訪 正明 氏



株式会社JMC
ビジネスソリューション部
システム企画グループ
藤崎 克彦 氏

弊社担当営業



株式会社ハンモック
ネットワークソリューション事業部 営業部
営業課 第一グループ 主任
中川 淳

情報は生かしてこそ価値がある

株式会社JMCはJTBグループの一員として「旅行関連情報の収集・蓄積・加工編集」及び「インターネットをはじめとする多様なメディアを通じた情報の提供発信」を主力業務とする旅行情報専門会社である。

適切な旅行関連情報を発信して、お客様には楽しさを提供し、施設の皆様にはお客様の情報利用状況やニーズをフィードバックして、施設のサービス改善に役立つ「情報オーガナイザー」となり、旅行業界のみならず、社会全般に貢献する企業になることを目指している。

JTBグループはグループ全体としてコンプライアンスに注力しているが、なかでもJMCはグループ内の情報オーガナイザーとして公正かつ透明な企業活動を実践している。

平成17年4月 個人情報保護法の施行をきっかけに、「AssetView HYPER A、D、M、P」導入し、保持している情報に対するセキュリティの強化に取り組んでいる。

そこで、「AssetView HYPER」の活用について諏訪常務とご担当の藤崎さんにお話を伺った。

禁止するのではなく 抑止することで目的を達成

「弊社はたくさんの旅行情報を日々メンテナンスしていくために、多数の臨時雇用者や派遣社員が関わっています。個人情報保護法が施行される以前からこれらの情報についてのセキュリティをどのように維持管理していくかという大きな課題でした。」

諏訪常務は「AssetView HYPER」導入のきっかけをこのように説明される。

「しかしながらデバイスロックなどのセキュリティ手法は使い勝手が悪く、対応が難しいためどのような手段でセキュリティを高めるか代理店からの助言を含め検討してきました。そしてファイル操作履歴とプリントアウト履歴をログとして蓄積し、いつでも参照解析できる仕組みがいちばん効果的かつ効果も損なわないという結論に達しました。」つまり、ファイルの操作やリムーバブルドライブへの書き込みなどを禁止するソフトウェアも市販されているが、運用が難しく、現実的ではない。全てのファイル操作やプリントアウト操作記録を参照、解析できるソフトウェアを導入し、社内に通達すれば抑止力が働き、十分にセキュリティが確

導入先企業データ

株式会社 JMC ジェイエムシー

株式会社ジェイエムシー

所在地：〒164-0012 東京都中野区本町2-46-1
中野坂上サンプライトツイン10階

設立：1989年4月1日

資本金：30,000千円

株主：株式会社ジェイティービー(100%)

従業員数：91名(2005年4月1日現在)

URL：<http://www.jtb-jmc.co.jp>

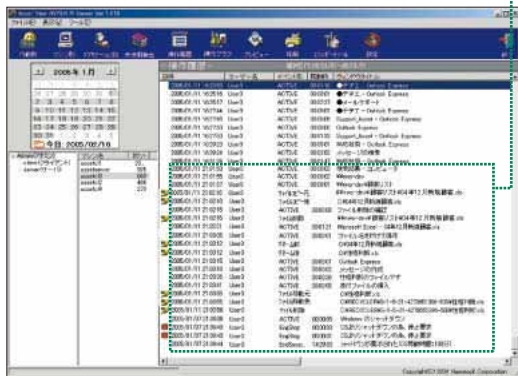
情報は生かしてこそ価値がある

情報オーガナイザー

JMCはJTBグループの一員として「旅行関連情報の収集・蓄積・加工編集」及び「インターネットをはじめとする多様なメディアを通じた情報の提供・発信」を主力業務とする旅行情報専門会社です。

私たちは適切な情報を発信してお客様には楽しさを提供し、施設の皆様にはお客様の情報利用状況やニーズをフィードバックして、施設のサービス改善のお役に立つ「情報オーガナイザー」となり、旅行業界のみならず社会全般のお役に立つような会社になることを目指しています。

■Asset View HYPER M【操作履歴監視画面】



▶ 左図の操作履歴ログでこんなことがわかります。

- コンピュータの検索でファイルサーバを検索
- 見つけたファイルサーバ『nws-dev』の『顧客リストフォルダ』へアクセス
- そのフォルダ内の『04年12月新規顧客.xls』ファイルをローカルのC:¥にコピー
- その後ファイルサーバから『04年12月新規顧客.xls』ファイルを削除
- ローカルの『04年12月新規顧客.xls』ファイルをエクセルで開いて確認
- その後『04年12月新規顧客.xls』ファイルを『性格判断.xls』とファイル名変更
- アウトロックエクスプレスを起動
- 『性格判断のファイルです』というサブジェクトのメールを作成し、『性格判断.xls』ファイルを添付
- C:¥性格判断.xlsを削除
- ゴミ箱のC:¥性格判断.xlsを削除
- 21時39分にOS停止

※掲載している画面は操作ログの一例です。

保できるわけである。この「抑止力」という考え方は、運用が易しく自由度が高いため、多くの企業で採用されている。

「Asset View HYPER」選択の理由

いくつかの市販セキュリティ製品の中で「Asset View HYPER」を選んだ理由をシステム企画グループの藤崎さんは次のようにコメントしている。「なんといっても必要な機能だけを選んで導入できることが最大のメリットですね。使わないものはいらないし、導入もしたくないですね。もちろん価格も魅力が出てきますよね。」株式会社JMCでは「AssetView HYPER M、P」を主目的に、副次的にAとDの4機能を導入することに決定した。

展開と導入効果

検討を開始したのは平成16年8月頃であったが、その時点で「AssetView HYPER M」には操作履歴監視機能がなかったため、この機能が実施されるまで導入を待つことにした。平成17年3月に機能強化の発表があり、早速デモを見て、機能を確認し発注した。

平成17年7月から全社展開を行うことになり、事前に社内にPC操作履歴を監視するという通達を行った。ただし、常時監視をするのではないこ

と、何か事件が起きたときは、ログを参照し、解析を行うことを明確に伝えた。

社内からの拒否反応は考えていたよりずっと少なく、会社の方針を理解し協力的であった。

ソフトウェアのインストール「AssetView HYPER D」の配布機能を使い、Push方式で全社に展開した。

導入効果としては、予定していた抑止力は十分に働いており、トップの評価も高く、満足できるものである。

さらに副次効果として「AssetView HYPER A」の資産管理機能により、誰がどのPCを使っているかが把握でき、今後のPCの展開計画に多に役に立っていることや、Windowsのセキュリティパッチの更新を「AssetView HYPER D」で実現できることなどが上げられる。

今後の計画

この「AssetView HYPER」をJTbグループ内にもっと推奨し、グループ内が同じソフトで管理されるようになればもっと効率もあがる。」と諏訪常務はグループ内での展開を計画されている。グループ内企業に対し、積極的にPRを開始されている。

また、株式会社JMCの今後の計画としてはノートPCの暗号化や、ネットワークごしのDBアクセスの制御など、一層のセキュリティ強化をはかる予定であり、来春にはプライバシーマークも取得予定である。

JMCのセキュリティを影で支えるハンモックの「AssetView HYPER」。

ハンモックでは株式会社JMCのように常にセキュリティの向上を目指す企業を支援できるよう、製品機能の拡充および新製品の開発に尽力している。